

# 私はこんな風に使っています! 石灰窒素

石灰窒素は誕生して百有余年、永年にわたり沢山の方々にご愛顧いただいておりますが、時が移り行くなかで石灰窒素の効能や効果的な使い方が忘れられてきているように思われます。そのなかで読者の皆さまから「石灰窒素の使用事例を知りたい」などのご意見が多数寄せられました。

弊会では、多くの使用事例を紹介するため、会員各社から取材の協力を得ながら最近の使用事例を紹介することで要望に応えたいと考え、本コーナーを設けました。どうか一読いただき、石灰窒素の多機能ぶりをご理解いただければ幸いです。

末筆になりましたが、寄稿いただきました皆さまに心から感謝申し上げます。

(日本石灰窒素工業会)

## 農家の石灰窒素使用体験記

### 葉物野菜には石灰窒素がなくてはならない

福島県伊達市 佐藤さん

佐藤さんは、福島県伊達市で葉物野菜、ジャガイモ、水稲、キノコなどの栽培、さらには牛の繁殖まで多岐にわたる酪農業をされ、石灰窒素を40年以上使い続けておられます。主に葉物野菜(ツルムラサキ)では、40 a の畑に石灰窒素を5~6袋/10 a 施用しており、かなりご満足いただいております。石灰窒素を使用したことにより、野菜栽培の敵・ヨトウムシが減少したとのことです。



石灰窒素を40年以上使い続けている佐藤さん

また、1.5haの水稲にも石灰窒素を施用しており、雑草の発生が大幅に軽減されています。農薬と肥料の2つの効果を併せ持つ石灰窒素は、なくてはならないものとおっしゃられ、先輩や友人にも、その効果を伝えているとのことでした。

「これから先も石灰窒素を使っているいろいろな栽培を続けていきたい」と、まだまだ元気な佐藤さんは語っておられました。

(取材:日本カーバイド工業株 一宮)

### 石灰窒素を使って20年 基肥、残渣腐熟の効果を実感

神奈川県横浜市 有田さん

神奈川県内、三浦市に次ぐキャベツ産地である横浜市において、神奈川区は主力産地のひとつとなっています。有田さんは、キャベツを中心にトウモロコシ、ブロッコリーやロマネスコなどを栽培するJA横浜の管内最大手の出荷生産者です。

夏に定植したキャベツの収穫作業がお忙しいなか、取材に応じていただきました。

有田さんが石灰窒素を使い始めたのは約20年前、キャベツの基肥として施用しました。

「キャベツの栽培を始めて数年、最初は良かった生育が年を経るごとに悪くなりました。そこで、知り合いの

生産者に相談したところ、石灰窒素を紹介されました」と有田さん。

最初、石灰窒素を紹介されたときは「長く効いて(緩効性)、農薬の働きもする変わった肥料があるのかと思いました」とのお話でしたが、実際に施用してその効果を実感されたそうです。現在では、基肥としてほかの肥料と組み合わせて石灰窒素を30kg/10 a ほど施用しているとのことでした。

その後、キャベツ栽培の前作にトウモロコシの栽培を始めたとき、石灰窒素の別の効果を実感されたそうです。「以前はトウモロコシの収穫後、そのまますき込んで

キャベツを栽培していましたが、やはり生育が悪いことがありました。そこで、神奈川県農業技術センターに相談すると石灰窒素の施用を勧められました」

農業技術センターからは、トウモロコシの茎葉をそのまますき込むと、有機物を分解する微生物によって土壌中の窒素が使われ、一時的に窒素飢餓の状態になるので、有機物のすき込みには窒素分の補給が必要なことと、そのときに石灰窒素を施用することですき込んだトウモロコシ残渣の分解が進み、土づくりにも役立つという説明があったそうです。

そこで、6月のトウモロコシ収穫後に石灰窒素を60kg/10 a 散布してすき込み作業をしたところ、次作キャベツ

の圃場準備のトラクタ作業で、ロータリーにからむトウモロコシ残渣が少なくなり、石灰窒素の効果を実感したとのこと。

石灰窒素を使い始めてから約20年、「今後も主要作物のキャベツ、トウモロコシに石灰窒素を有効活用したい」と有田さんは力強く語っていました。  
(取材：片倉コープアグリ(株) 渡辺、江原)



「今後も石灰窒素を有効活用したい」という有田さん

## トウモロコシの土づくりに石灰窒素

山梨県甲府市 小林さん

山梨県の甲府盆地は、ブドウ・モモの産地として誰もがご承知とは思いますが、南側の平坦地にトウモロコシの早生栽培が盛んな地域があります。

水田を利用した作付けが一般的、極早生の栽培では小正月が過ぎれば種まきが始まり、トンネル被覆を二重に設置して寒い時期を乗り越え、収穫は5月から開始して6月には終了、その後に田植えが始まります。

小林さんは稲刈り後、トウモロコシの土づくりに稲わら腐熟を兼ねて10 a 当たり石灰窒素を2袋(40kg)



トウモロコシ栽培も盛んな甲府市

施用しています。稲わら腐熟用としては通常よりも多い施用量ですが、「トウモロコシの栽培には地力が必要で、堆肥の大量施用は大変労力がかかります。石灰窒素を使えば、堆肥を圃場でつくるので労力が削減されるし、基肥の一部として、またセンチウ類の抑制も期待しているので、施用しています」と小林さんは述べられました。

二毛作の栽培形態に石灰窒素をうまく利用した一例でした。

(取材：デンカ(株) 小池)

## 水稲の土づくりに石灰窒素は欠かせません

京都府舞鶴市 南部さん

南部さんは、京都府舞鶴市にある農作業受託組合の会長を勤められており、地域農業の維持・発展に貢献されています。

栽培作物は「コシヒカリ」、酒米「五百万石」といった水稲が中心で、石灰窒素は、南部さんのお父様の代から使用され、ご自身も「お礼肥」「土づくり」のために使用されているとのこと。

石灰窒素の使用方法は、稲刈り後、なるべく暖かい時期までに、刈り取った稲



お礼肥、土づくりのために石灰窒素を毎年使用している南部さん

わらの上に石灰窒素を10 a 当たり20kg散布し、すき込むことにより稲わらを腐熟させているとのこと。

「昔の農家は、堆肥をつくって施用していましたが、現在は堆肥をつくることや散布することは労力的に難しいです。この点、刈り取った稲わらは貴重な有機物で、これをいかに田植え前までに腐熟させておくかが重要となります」と南部さんはお話されました。

また、近年、春先の気温が高く、ほかの地域では、いわゆる「ガスわき」が問題となっている圃場が多いなか、南部さんは毎年、稲わらすき込みに石灰窒素を使用しています。このため、稲わらが十分腐熟して「ガスわき」が発生していないとのこと。

また、石灰窒素には、ノビエの休眠覚醒効果もあることから、今後は、こちらの効果も期待しながら石灰窒素

を使用し続けたいとのことです。

なお、ノビエの休眠覚醒効果を期待する場合は、石灰窒素を散布後、すぐにすき込むのではなく、ノビエの発

芽を確認した後にすき込むことが重要となるため、ノビエの発生が多い圃場では、使用方法も工夫して使用したいとのことです。  
(取材：デンカ(株) 森本)

## 稲・麦栽培に石灰窒素を活かす

福岡県糸島市 井田さん

井田さんが農業を営んでいる福岡県の糸島地区は、約400年前の江戸時代に開かれた干拓地で、今でも都市近郊にありながら農業が盛んな地域です。

井田さんは、水稲作・麦作を専門に農業一筋で60年ほど取り組んできました。当初10 a 区画の1.4haの土地から農業を始め、現在は長男が後継者として水稲28ha、麦作33haを耕作し、自宅から10分程度で全圃場へ行けるように集積しています。もともとは、砂地がかった土壌で稲、麦やナタネを栽培していました。

「動力が牛からトラクタに代わり、経営規模を拡大した頃から良質な堆肥を投入しにくくなり、増収・高品質



農業一筋60年の井田さん

を得るには“土づくり”が必要と感じていました。当時、農業改良普及員から指導を受け、稲わら、麦わら、ナタネ茎などを石灰窒素とともにすき込み、“土づくり”を行ってきました。石灰窒素は脱窒しにくく、緩やかに窒素が効くことから、増収とともに品質向上に大きく貢献しました」と井田さん。

石灰窒素を使い始めて50年以上が過ぎ、地域の仲間とともに土壌改良に取り組み、現在も石灰窒素を土づくりや基肥として使用しているとのこと。 「稲、麦の収量や品質向上に欠かせない石灰窒素は、いい肥料ですよ！」との自信に満ちた声が印象に残りました。  
(取材：デンカ(株) 尾形)

# なるほど ここがポイント! 好評! 国産石灰窒素の使い方

**CD**  
無料進呈!



国産石灰窒素の  
効果的な使い方を  
わかりやすく説明した  
CDがあります!

「なるほど ここがポイント  
国産石灰窒素の使い方」CD  
ご請求はこちらまで



メルマガも配信中!

メールマガジンにご登録いただくと、石灰窒素の技術情報やトピックスを掲載したメルマガをお届けします。

ご希望の方は、ハガキまたはFAXに郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、作物名を必ずご記入のうえ、下記までお申し込みください。

### 日本石灰窒素工業会

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-3-4 サンクス神田駅前ビル8階  
TEL. 03-5207-5841 FAX. 03-5207-5843

<http://www.cacn.jp>

日本石灰窒素工業会 検索

ここをクリック!